

- 佐野市 -

時間旅行へようこそ ～須花トンネル～

1. はじめに

佐野市は栃木県南西部に位置し、東北自動車道と北関東道の高速道路、合わせて3つのインターチェンジを擁する交通の要所として発展しているが、市北部に目を向ければ、自然豊かな山間地域があり、レジャーに訪れる人も多い。

ところで私の趣味は山登りで、休日は県内の山歩きを楽しんでいる。そこで私は、山肌を縫うように貼りついた林道や、治山工事、砂防ダム建設現場などを目の当たりにし、日本の土木技術の素晴らしさに感動を覚えるのであった。今回ご紹介する旧須花隧道（須花トンネル）も、ハイキングコース上に見ることができ（車でも行けます）、まるでタイムスリップしたかのような、現代の土木技術の原点とも言える趣を今も残している。



手掘りの須花トンネル（佐野市文化財課提供）

2. 明治の須花トンネル

須花峠は古くから、佐野市下彦間地域と足利市名草方面を結ぶ交通路であった。村人たちはこの峠を越えなければ交易ができないのだが、急坂が人々を苦しめていた。そこで立ち上がったのが田島茂平氏である。茂平はこの峠に、トンネルの開削を計画した。

トンネルに関する文献のほとんどは、伝承や民話のようなもので、技術的な記録はない。当時の技術は稚拙で未熟で、相当な難工事であったろうことは容易に推察できる。固い岩盤をコツコツと人力で掘り進める。やがて集めた寄付金も底をつき、支援者や家族も茂平から離れて行く。それでも茂平はあ

きらめることなく、私財を投げ打って工事を続け、明治22年1月、ついにトンネルが貫通する。こうして全長117m、手掘りの須花トンネルが完成したのであった。計画から14年、着工から実に8年の歳月が過ぎていた。



左：当時の難所であった須花峠
右：村人が苦勞した峠も今はハイキングコース

3. 現存する3つのトンネル

茂平の明治トンネルは時代とともに役目を終え、大正6年には全長83mの大正トンネルが造られた。この大正トンネルは煉瓦アーチ式となっており、当時の土木技術を見ることができる。デザインもモダンで美しい外観の面影を感じさせる。そして大正トンネルもまた、世の中の移り変わりにより、昭和55年竣工の昭和トンネルにバトンタッチし、現在に至っている。

ここで特筆すべきは、この明治・大正・昭和の3つのトンネルが近接して現存していることだ。これは全国的にも大変珍しく、明治・大正の各トンネル内部は立ち入ることはできないが、一見の価値があるろう。

4. おわりに

現在須花峠付近は須花坂公園としてハイキングコースが整備されており、地元の人に親しまれている。春には座禅草が咲く湿原もある。田島茂平翁の功績は、今も語り継がれる偉業だ。みなさまも先人たちの苦勞を思い、時空を超えた体験をしてみたいかが。

佐野市 都市建設部 建築指導課 係長 荒井 まゆみ